



ユツユツ とこどん

大仙市立太田中学校
 令和3年8月31日
 NO. 56



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

グローバル社会への対応のきっかけに

本校には他校に自慢できる様々な取組があります。花壇活動や被災地交流はもちろんですが、グローバル社会と言われる現代を生き抜くためにグローバル人材の育成を目指す学習「**インターナショナルデー**」もその一つです。昨年は3年生だけで行いましたが、今年は全校で行い、今後長く実施しながら本校の特色、誇りと言っても過言ではない取組にしていきたいと思っています。

その「インターナショナルデー」(今回で2回目の実施)を「**他国の文化に触れることで、国際理解(交流)の心を育てる**」「**日常生活で関わることで、少ない大仙市のALTの先生方と接することで、進んで英語を使いながら楽しくコミュニケーションを図ろうとする意欲を育てる**」ことをねらいとして、昨日8月30日(月)の午後実施しました(新型コロナウイルス感染症が治まれば、太田地域3小学校の6年生にも参加をお願いしたいと思っています)。



講師を務めてくださった大仙市のALT, CIRの先生は6人、国籍もアメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールと様々です。

オープニング集会の後、ALTの先生方には、二つのワークショップで、自国の文化やスポーツ、地理、歴史、ゲーム等について、子どもたちとコミュニケーションをとりながらワークショップ(アクティビティ)をしていただき、子どもたちは自分が選んだ先生の授業に参加することで、英語とともにその国について学びました。



子どもたちの順応性は大人以上のものがあります。ALTの先生方の上手なリードもありましたが、積極的にコミュニケーションしようとする姿勢や楽しそうな笑顔が、この活動の意義を物語っているようでした。とても有意義な時間を過ごすことができたことに加えて、大仙市の「グローバルジュニア・マイスター育成事業」を推進する活動であり、本校生徒の多くが認定される要因の一つにもなる活動であることを実感しました。



日本の英語教育は、これまで「読む」「書く」が中心でしたが、今の時代に、より必要とされることは「聞く」「話す」だとも言われます。英語でのコミュニケーションは、これからの社会を生きていくために比重の大きいものになってきています。

今年もコロナ禍でどこにも旅行に行っていませんが、私は一昨年の夏、広島、関西に行きました。宮島の商店街には外国人が日本人よりも多くいました。国籍は様々、分からない言語を話している人も……。その中で、商店街の人たち(バイトの人もたくさんいたと思います)は、英語や中国語、韓国語などで、食事の注文をとったりお土産に対応したりしていました。観光地や串揚げ屋、お好み焼き屋に行っても、日本人よりも外国人の方が多いと言っているくらいでしたが、案内の人やお店の人たちは、説明や注文、メニューや串揚げソース二度付け禁止の説明等もその国の言葉で対応していました。こんなところにグローバル社会が…。私には到底無理に感じましたが、よくよく聞いてみると、しっかりした文法での表現というよりも、単語や身振り手振りで意志を通じ合わせていることも多く、もしかすれば、私でもなんとかかなるかなという気持ちにもなりました。オリンピック・パラリンピックも行われ、秋田にもインバウンド(外国人が日本に訪問する旅行)が増えてきています。恥ずかしさや自分の英語が通じるかの不安よりも、まずは英語を話そうとする気持ちや意欲が大切なのではないでしょうか。それがグローバル人材への第一歩かも知れません。

英語の重要性は至る所で論じられ、疑いのないところですが。英語力とともに英語でコミュニケーションしようとする意欲や態度は、今や身に付けなければならない必需品と言っているのかも知れません。その意味で、この「インターナショナルデー」がきっかけになってくれるのではと感じたところです。